

# チンゲンサイ

## 栽培のポイント

### ① 株数にあわせ種のまき方を変えましょう

少ない株数の場合はポリ鉢や育苗箱で苗を育て、本葉4~5枚のころに植え付けます。まとまった株数を育てる場合は、畝にまき溝を作って直播きしましょう。播種から1~2週間後、葉が重なり合わないよう間引きをして、しっかりとした株に育てます。

### ② 追肥を忘れずに

苗を植え付けた場合は、定植後2週間ごろに畝間に化成肥料をばらまき、土に混ぜ込みます。直播きの場合は、本葉4~5枚の頃とその半月後、株間にばらまきましよう。株間にまきにくい時は、畝の肩を切った所にまき、土寄せする要領で土に混ぜ込みましよう。

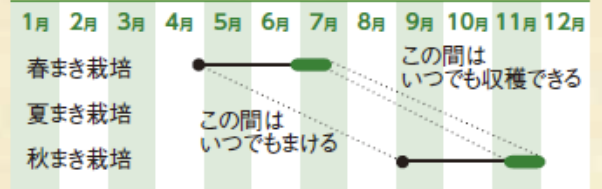
### ③ 早めの害虫防除を

チンゲンサイは、アブラムシやアオムシの被害が発生しやすく、発見したら、速やかに捕殺するか、殺虫剤をかけて防除しましよう。葉の裏もしっかり確認し、被害の拡大を防ぐことが大切です。



品種例  
・青帝(せいてい)  
・青冴(あおさえ)など

## 栽培カレンダー



## 1 畑の準備

畑にはなるべく早く石灰をまいて耕しておく

(1㎡当たり)

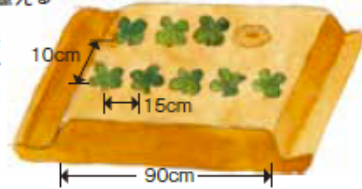
油粕 大さじ3杯 種まきが近づいたら、元肥を全面にばらまいて、  
化成肥料 大さじ5杯 15cmくらいの深さによく耕し込む  
完熟堆肥 5~6握り

## 2 種まき・植えつけ

### 育苗の場合

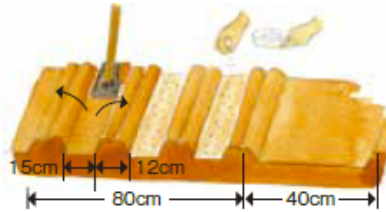
(株数が少ない場合)3号ポリ鉢に4~5粒まく→本葉1枚のころ1本立てに→本葉4~5枚のころ畑に植える

(株数が多い場合)育苗箱に条まきし本葉2~3枚のころベッドに植え、本葉4~5枚の苗に育てあげてから畑に植えつける



### じかまきの場合

深さ4~5cmのまき溝をつくる  
2~3cm間隔になるように、溝の全面に種をばらまく  
種の上に1cmほど土をかける



## 3 保温

12~13℃以下の低温にあうと花芽ができ、とう立ちするので、春早くまくとときや秋遅くまで収穫するときなどは、ビニールトンネルで保温する

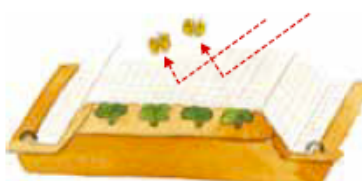


日中は30℃以上に昇温しないよう換気する

## 4 害虫防除

春と秋には害虫が発生しやすいので、早いうちに捕殺するか、殺虫剤をかけて防ぐ

薄い割繊維不織布などのべた掛け資材を葉の上に直接覆うと、農薬を使わずに害虫が防げる。夏の栽培では強い光を遮り、防暑効果も期待できる

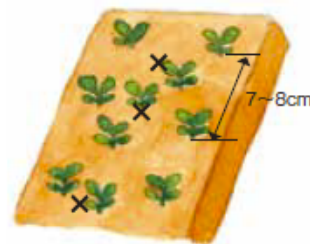


## 5 間引き

じかまきの場合、育つにつれて2回間引きする。最終株間を広くとり、株張りのよい株に育てる

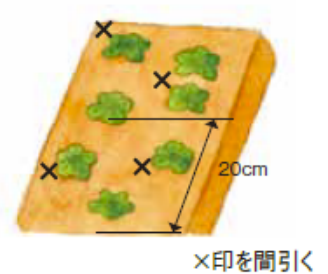
### 第1回

本葉2枚のころ、株間7~8cmに



### 第2回

本葉5~6枚のころ、株間20cmくらいに

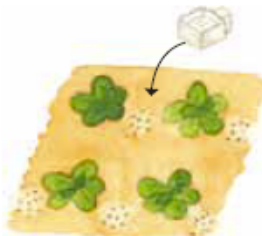


×印を間引く

## 6 追肥

### 第1回

本葉4~5枚のころ、畝間にばらまき、軽く土に混ぜ込む  
(1㎡当たり)  
化成肥料 大さじ3杯



### 第2回

第1回追肥の半月後に、株間にばらまく  
(1㎡当たり)  
化成肥料 大さじ4杯

## 7 収穫

種まき後、春は45~55日、夏は35~45日、秋は50~65日くらいで150gほどのものが収穫できる



下のほうが膨らみ、葉に厚みのあるものが良品